

第 11 期第 1 回神奈川県男女共同参画審議会での委員意見について

策定プロセス

事業/ 目標値 /参考 数値な ど	委員	ご意見	反映
調査	野村委員	男女共同参画推進プランは、5年に一度見直しというスケジュールが決まっているので、改定に合わせて男女共同参画に関する調査を行って、重要な項目は定点観測して推移を見て目標に組み込む、今後の課題として、そのような調査があってもいいのではないかと。	C
当事者 目線	太田バークレイ委員	基本理念の「当事者目線に立ち」について、言葉としては大事だが、そのプロセスの中に必ず当事者が入っていないといけないと思う。問題が何であれ、例えばジェンダー平等の話をするのであれば、LGBTQ当事者や、アライとして活発に活躍している方を取り入れて意見を聞く、反映させるとか、ひとり親の議論になったらその方たちを呼んで意見を聞くとか、実際に、私たちが意識的に当事者の目線を取り入れているということを見せる必要があるのではないかと。 男女審に出席しなくても、例えば事前にアンケートをとるとか、インタビューするとか、何かしらの形でプロセスに含まれていることが見せられたらいいと思う。	B
	岩田会長	特に今回重要であると思う領域について、関係する団体やグループに時間をとって、一般的なパブリックコメントとは別に、事務局で何らかの形で意見を聞いていただくということを検討していただきたい。	
	川島委員	若者や若年層、或いは子どもたちの意見も取り入れるというようなプロセスが、どこかにあればいいと思う。少なくとも高校生、遅くとも大学生の意見を聞くということは、若者たちの意識を変えることにも繋がるのと同時に、やはり若者たちの意見をこのジェンダーにどう取り入れるかというのはとても大事なことで、子どもの意見を聞くというのをぜひどこかのプロセスに入れていただきたい。	
	岩田会長	委員の中には、大学で教鞭をとっている方、大学で講演することが多い方もいらっしゃる。場合によってはそういう方の力も借りて、何らかの形で若い方、学生の意見を聞くというのはできるかもしれないと感じたので、事務局で検討していただきたい。	

<「反映」欄について>

A・・・反映済み

B・・・今後反映/調整中

C・・・反映しない

全体・構成等

事業/ 目標値 /参考 数値な ど	委員	ご意見	反映
情報提 供・啓 発等	岩田会 長	情報提供、啓発活動、教育の方法について、若い人たちが日常的に使っている情報ツールを行政も取り込んで活用していくことを盛り込んでいただきたい。	B
目 標 値・参 考数値	岩田会 長	重点目標5でジェンダー統計とうたう以上、目標値も参考数値も、原則はすべて男女別の数値をとっていただきたい。	B
ジェン ダー平 等	太田委 員	「ジェンダー平等」の言葉を他のところでも使用したい。 例えば、重点目標3「男女共同参画の面から見た健やかで安全・安心なくらし」で、「女性」と言ってしまうと、女性の体を持って生まれてきた人に限定されてしまう。男性の身体をもっているけれど女性として生きている方、自分は女性だと思って生きている人にもきちんとサポートが届くような施策をすることや、そういうメッセージを発信することが大事だと思う。	C
	野村委 員	「ジェンダー平等社会へ」という文言を基本目標に入れたので、その他のところにも言葉として随所に入れることによって、すべてが「ジェンダー平等」というもので貫かれていることが、もう少しわかりやすく伝えられるのではないかと。 例えば、重点目標4「子ども・若者に向けた意識啓発」に「ジェンダー教育」を入れてはどうか。	
現状と 課題	井上委 員	「1 男女共同参画をとりまく神奈川の状況」から始まるが、グローバルな視点で、日本ないしは神奈川県がどういう位置にあるのかということをごどこかで書けると良い。	B
	白河副 会長	「2 個別分野ごとの現状と課題」の「育児・介護をめぐる状況」はあえて「男女の」と入れていただきたい。この記載では女性だけの問題のように感じてしまう。「ワーク・ライフ・バランスをめぐる状況」は、ワーク・ライフ・バランスは意識などの問題ではないので、「働き方とワーク・ライフ・バランスをめぐる状況」など、こういった文言を入れていただきたい。	A

重点目標 1 あらゆる分野における男女共同参画

施策の基本方向	主な施策	事業/目標値/参考数値など	委員	ご意見	反映
(1) 政策・方針決定過程における女性の参画	① 政治・行政分野における政策・方針決定過程への女性の参画	政治分野	岩田 会長	国の行動計画は随分強化されたので、県のプランにおいても強化していただきたい。具体的には、ジェンダー統計の整備と情報発信を主な事業のレベルで盛り込んでいただきたい。首長や市町村議会の議員の男女比率、もし政党別が取れるようであれば政党別の男女比率、選挙ごとに候補者に占める女性比率、結果として当選した方の女性比率等の情報を集めて発信する。あわせて、各議会や各政党が、女性の候補者を発掘したり、議員が活躍しやすいように、どういう取り組みをしているかということについても、情報を集めて発信する。	B
(3) 家庭・地域活動への男性の参画		④ 男性職員の育児休業等取得率(知事部局等)	白河 副会長	育児休業の取得率に加えて、何日取得したかということも把握していただきたい。	B
		⑤ 民間事業所の男性の育児休業取得率もしくは取得期間別割合に係る目標	井上 委員	育児休業の取得率についてかなテラスで把握されているのであれば、きちんとクロスされるような形で、実質的な目標値にしていただきたい。	B

2 職業生活の充実とワーク・ライフ・バランスの実現

施策の基本方向	主な施策	事業/目標値/参考数値など	委員	ご意見	反映
			太田 バー クレ イ委 員	経営陣に対するセミナーやトレーニングは大事だが、若い世代に対する、リーダーについて行くフォロワーとしての意識改革とか、そういうトレーニングも必要ではないかと思う。	B
(1) 職業生活における活躍支援	① 女性の就業支援		鈴木 委員	主な事業は調整中の部分もあると思うが、女性の再就職、キャリアチェンジ、起業という項目も入ってくると女性の就業選択が広がると思う。	B
		就職面接用スーツ貸出事業	太田 バー クレ イ委 員	「就職面接用スーツの貸出事業」に関連して、私がロンドンで仕事をしていた時には、女性も男性も使わなくなった仕事用の服などを寄付してもらって、使いたい人の元に届くようにするという取組があった。そのような寄付活動は、実施する企業にとってはいいパブリシティにもなり、取り組みやすい政策だと思う。	C
	④ 就業環境の整備	男女間賃金格差	岩田 会長	男女間賃金格差の問題について、県として何ができるか。県の条例に基づく届出調査に男女間賃金格差の項目を追加して、それを集計して、その結果を何らかの形で活用するということがあると思う。参考指標になっている男女間賃金格差を、目標値に移して、しっかり状況を把握するということが考えられると思う。	C
			鈴木 委員	いろいろな数字を公表する取組みをもう少し広げていてもいいと思う。女性の賃金格差が公表されるようになるが、公表する仕組みや、評価に反映させるような仕組みがあると、やらざるを得ない、やらないととても恥ずかしい思いをすることになるので、そうした取組も必要だと思う。	C
	⑥ 25～44歳の女性の就業率〔労働力調査〕	岩田 会長	正規と非正規に分けた統計を基本目標にできるといい。目標値にはできないとしても、参考数値としては載せて、推移を追う必要があると思う。	B	

施策の基本方向	主な施策	事業/目標値/参考数値など	委員	ご意見	反映
(2)働き方改革の推進と新たなワークスタイルの創造			野村委員	<p>中小企業支援について、自治体からの働きかけで比較的效果があるのではと思う項目が三つある。</p> <p>①ネットワーク支援で、研修等を通じて、経営者のネットワークを作って経営者同士が刺激し合うというような取り組み、女性の、特に幹部クラスの女性のネットワークを作って支援するというような取り組み。</p> <p>②個別に企業で何か動き始めようとするときにはお金がないということが課題であり、専門家の派遣、アドバイザーの派遣などに補助を出してもらえると、小さな規模の会社は、それをきっかけにして動きやすいと思う。</p> <p>③アワードの設立であり、自治体の賞を受賞することを目標にして頑張る、受賞したら、外部から評価を受けたのだからしっかりと取り組まなくてはということで、上層部の意識が変わる、社内の意識改革に繋がる、若者の採用増にも繋がる、応募してくる学生が増える、特に女性が増える、入社してきた人たちを見て、社内の意識改革がさらに進むという循環もある。</p>	①② B ③ C
	② 両立支援のための取り組み促進	イクボス	川島委員	<p>「イクボス」は、部下の私生活に配慮しながら、組織の成果を出す経営者や管理職という定義づけをしている。重点目標1からすべて、目標の大半が、上司や経営者、管理職の意識行動にかかってくるのではないかと思う。いくら法律や規定を作っても、いくら数値目標を作っても、やはり男性上司や経営陣が従来の考え方のままでは、絵にかいた餅になり、その意識と行動改革つまりイクボスの推進というのは、全ての施策に対する肝になると思う。「イクボス」を、もっともっと、県内、或いは県庁内に広げていただくということを政策に入れたらいいのではないかと思う。</p>	B
			太田バークレイ委員	<p>「イクボス」というと男性の経営陣にフォーカスされがちだと思うが、私たちのひと世代上の女性で、いわゆる男性のキャリアパスを通過してきた女性にも推進する必要があると思う。</p>	B

3 男女共同参画の面から見た健やかで安全・安心なくらし

施策の基本方向	主な施策	事業/目標値/参考数値など	委員	ご意見	反映
(1)あらゆる暴力の根絶	①「配偶者等からの暴力防止」		湯澤委員	①「配偶者等からの暴力防止」②「配偶者等からの暴力被害者への支援」となっていて、「等」という言葉をつけていることで配偶者に限定されていないが、子どもから或いはその他の家族からの暴力、若者の間での暴力という問題がとても深刻なものになっている。「配偶者」という言葉に限定されない、より広いということが伝わるネーミングになるといいと思う。	C
	②「配偶者等からの暴力被害者への支援」	②5 県配偶者暴力相談支援センター	湯澤委員	DVや女性相談に関して見えないのが、市区での働きである。市区の婦人相談員が今後は要になっていくはずで、そこでの相談件数というのはどこにも出てこない状況があり、そこにアプローチする必要があると思う。	C
		におけるDV相談件数	井上委員	DVの相談件数をどこでカウントするかということが、日本全国定まっていない状態にある。調査をするときには、何をどういうふうに、どこでカウントしていくかということを見ていかないと、実態の把握にならないことが多い。これまでの施策の流れから仕方がないところも多々あるが、調査をし、それを目標値にする以上、丁寧にそのあたりは見えていかなくてはいけない。市町村で把握しているものも含めて、そもそも相談できない人たちをどのように補足していくかという施策の展開にも繋がっていくところだと思うので、丁寧にお願いしたい。	C
(2)困難を抱えた女性等に対する支援	①ひとり親家庭に対する支援	養育費確保支援の充実	湯澤委員	必要な事業ではあるが、そもそも、ひとり親の生活費の安定をどう図れるのかということでは、やはり雇用や経済保障を見ていかなければならないのではないかと。	B
		母子家庭等就業自立支援センター事業就業数	湯澤委員	養育費に係る数値目標のみならず、雇用に係る数値目標が必要だと思う。「母子家庭等就業自立支援センター事業の就業者数」は、就業者数だけではなくて、正規の人が何人だったかということがとても重要で、むしろそこを表に出していただきたい。	B

施策の基本方向	主な施策	事業/目標値/参考数値など	委員	ご意見	反映
(2)困難を抱えた女性等に対する支援	① ひとり親家庭に対する支援	新規目標値	岩田 会長	ひとり親の人たちが経済的に自立できているかを見る指標は、やはり必要ではないかと思う。自立支援センターの就業者数の数も、参考数値にはぜひ残していただきたい。あわせて、それに代わる経済的な自立に関するデータを目標に入れていただきたい。	B/C
	⑤ 生活困窮者等の自立に向けた支援		岩田 会長	(1)「あらゆる暴力の根絶」にも関係するが、県の一時的保護施設、DVセンターのあり方の見直し、自立が難しい方の自立支援のあり方と、県が持っている施設のあり方をこの5か年の中で検討することを主な事業に書いていただきたい。	C
	⑥ 性的マイノリティ(LGBT等)に対する支援		岩田 会長	県としてのパートナーシップ協定を次の5年間の計画の中で検討する、そしてそれを受けて県内の市町村にも普及していくことを主な事業に書いていただきたい。	B
(3)生涯を通じた健康やかで生き生きとした暮らしの支援	① 女性の健康に対する支援	自殺	湯澤 委員	「男性の健康に対する支援」に自殺対策計画に基づく取組が入っていて、これは重要なことだと思うが、一方で、コロナ禍で露わになったのが女性の自殺の問題であり、男性に比べれば低くても、世界的に、国際的にみれば日本の女性の自殺率は高いという現実から考えると、女性の健康支援においても自殺という問題は重要だと思う。	A
	② 男性の健康に対する支援		太田 委員	自殺についての目標値はあるが、自殺までいく前の、カウンセリングのサポートや、鬱病なりその前の段階に対するサポートがキーだと思う。実際に、そういうサポートに日本なり神奈川県なりでもっとアクセスしやすいシステムができて、そういうサポート件数の数値が上がれば良いと思って、アイデアとして申し上げる。	C

施策の基本方向	主な施策	事業/ 目標値 /参考 数値な ど	委員	ご意見	反映
(4)防災・復興における男女共同参画の推進	① 防災分野への女性の参画支援		井上委員	重点目標1から重点目標3に位置づけを移すことによって、防災の現場に女性が入ってくるということはもちろん、それに加えて防災施策自体の男女共同参画の視点、ジェンダーの視点を促進する形で施策を展開してほしい。	A
			白河委員	防災会議はどこの自治体も組織いるが、女性の委員がゼロの会議が日本全国をみるとまだたくさんある。女性の委員がゼロの防災会議と、1人でも2人でも女性委員がいる防災会議とでは取組みが全く違って、女性が参画することの効果も高いので、そういった形で把握するというのはどうか。	B

4 男女共同参画社会の実現に向けた意識改革と基盤整備

施策の基本方向	主な施策	事業/目標値/参考数値など	委員	ご意見	反映
(1) 固定的性別役割分担意識解消のための意識改革		男女の平等感	野村委員	「男女の平等感」という参考数値が今回設問数を削減されてしまったが、重要な指標だと思うので、何か代わりになるような参考数値が必要だと思う。	A
(2) 子ども・若者に向けた意識啓発			太田バークレイ委員	次の世代も取り込んだ意識改革や、政策に反映することが必要で、彼らの意見を取り入れないと不十分なのではないかと思う。どういう形であれ、彼ら、彼女たちの意見を組み込むシステム、教えるだけではなくて、向こう側からの意見を取り入れる双方向のシステムがあったらいいのではないか。	B
		夫は外で働き、妻は家庭を守るべきだ」という考え方について「そう思わない」18～29歳の人の割合	野村委員	若い人がどう思っているかという極めて重要な意識調査なので、母数が少ないために見直しというのは残念な理由であり、何か代わりになるような指標が必要。	A

5 推進体制の整備・強化

施策の 基本方 向	事業/ 目標値 /参考 数値な ど	委員	ご意見	反映
(1)多 様な主 体との 協働		鈴木 委員	実績のあるNPOもいろいろな現場レベルの状況を把握しているのではないかと思う。そういったデータや声を反映する仕組み、信頼できる機関と連携しながらデータを補充する仕組みがあってもいいと思う。	C
(2)ジ ェン ダ ー 主 流 化 と ジ ェ ン ダ ー 統 計 の 促 進	ジェン ダー主 流化	井上 委員	計画を進行していくにあたって、男女共同参画を所管している共生推進本部室が、ジェンダー主流化に基づいて、もうちょっと力を発揮してもいいのではないかと思う。そのことを神奈川県の実策として、ここに書いていただきたい。県庁内の施策を進めるうえで、男女共同参画プランがどのような形で関わって推進していくかということを入れていただきたい。 いろいろなところで、共生推進本部室の調整が入っていたかどうかをきちんとしていくということかと思う。事業実施ではなくて、各部局との調整という行政手法をどのように取り入れていくか、この計画と直接関係ないかもしれないが、審議会としては非常に重要なことだと思う。	C
		白河 副会 長	全てのプロジェクトに対して男女共同参画の所管部署が何らかの意見を申し述べるができるというのは、ジェンダー主流化の一つの方法として素晴らしい。 その方法の一つとして、事前に、計画が進行する前に、全然女性が入っていないとか、イベントやシンポジウムに一人も女性がいなかったりとか、そのように事前に是正できるような仕組みがあったらいいと思う。	C
		岩田 会 長	県庁内に様々な行動計画やプランがあるが、そのプランの案の段階で、県男女共同参画審議会が意見を付すという、そういうプロセスをぜひ導入していただきたい。それぞれのプランはそれぞれの部局、それぞれの審議会でも検討してそちらに責任と権限があるので、県男女共同参画審議会の意見がそのまま通るという位置付けにはならないかもしれないが、県男女共同参画審議会として、ここが欠けている、ここはちょっとおかしいと、特に意見を付すべきものについては意見を言うということをぜひやらせていただきたい。	C

施策の 基本方 向	事業/ 目標値 /参考 数値な ど	委員	ご意見	反映
(2)ジ ェン ダ ー主 流 化とジ ェン ダ ー統 計 の促 進	ジェン ダー統 計	鈴木 委員	統計でベースになるのは、男女別の数値の把握だと思う。性別について難しい問題を抱えている方もいらっしゃると思うが、少なくとも男女別の数値が見えなくならないように、隠れてしまわないように、きちんと取るべきところは取る必要があるのではないかな。	B
(3)進 行管 理	見える 化	井上 委員	主な事業の「市町村の男女共同参画施策の「見える化」など」とあるが、市町村が実施していることを県が支援していくうえでも非常に重要だと思うので、より実質的な形で進めていただきたい。	A
		白河 副会 長	計画の進行管理は、数値目標を設定し、進捗を確認して評価と、やはり事後になってしまう。事後に駄目だったというのではなくて、積極的にどうやったら事前に介入できるかということにも取り組んでいけたらと思う。	C